古井の川通信

思いやる子　考える子　がんばる子

学校便り
7月
出部小学校
7月１４日発行

～子どもたちのすてきなことばを育てていくために～

早いもので、一学期もあと一週間で終了となります。近年は、「暑すぎて体育ができない。」「暑すぎて校庭で遊べない。」そして「暑すぎてプールにも入れない。」といったことも増えました。今年も酷暑となりそうです。体調に気を付けながら、夏休みまでの教育活動を充実させていきたいと思います。

学校では、子どもたちの中から「ありがとう」「どうぞ」「だいじょうぶ？」といった、心あたたまることばが日々たくさん聞こえてきます。そんな思いやりや優しさが、私たち大人の心まで明るくしてくれることがあります。その一方で、何気ない一言が、相手の心に引っかかってしまうこともあります。子どもたちは日々の中で、ことばの選び方や伝え方を少しずつ学んでいる途中です。「そんなつもりじゃなかった」のに相手を傷つけてしまうこともあれば、自分の気持ちがうまく伝えられずに強いことばになってしまうこともあります。

すべての子が、「ここにいていいんだ」と安心して過ごせる学級や学校を、子どもたちと一緒につくっていきたいと考えています。

私たち大人にできることは、子どもたちのことばに耳を傾け、よいところを見つけて伝えてあげることです。そして、「ことばは人を幸せにできる力がある」ことを、毎日の関わりの中で感じさせてあげることではないでしょうか。

≪　―お願い―　ご家庭でも、こんな関わりを意識してみてください。≫

1　子どものよい行動やことばを見つけて、すぐにほめる

◇「ありがとうって言えてたね」「優しいことばを使っててすてきだったね」など、具体的にほめることで、子どもは「またやってみよう」と思えるようになります。

2　強いことばが出たときは、問いかけで気付かせる

◇「そのことば、もし自分が言われたらどんな気持ちになるかな？」と一緒に考えることで、自分のことばをふり返るきっかけになります。

3　「まだできない」ではなく「できたこと」を認める

◇「がんばって言おうとしてたね」「あと一歩だったね」など、過程を認めることで、子どもは自信と安心を育んでいきます。

子どもたちのことばは、私たち大人のあたたかなまなざしによって、より豊かに育っていきます。学校と家庭が手を取り合い、あたたかなことばがあふれる毎日をつくっていけたらと願っております。子どもたちの成長を、これからもご家庭と共に見守り、育んでいければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

５年生　夢の教室！

６月１９日（木）に５年生の「夢の教室」がありました。元プロサッカー選手の瀬口拓弥さんに「夢をもつことの大切さ」や「諦めない気持ちの大切さ」について、語っていただきました。今年度は数年ぶりに対面で交流することができ、子どもたちにとっては大変貴重な時間になりました。

今回の経験をきっかけにして、様々なことに挑戦してほしいと願います。

交通安全教室

６月２日（月）は３～６年生を対象に交通安全教室を行いました。自転車シミュレーターを使って、正しい自転車の乗り方を学習しました。また、１～２年生も４月に体育館で「正しい横断歩道の歩き方」について練習しました。

夏休みが始まりますので、ご家庭でも自転車の整備や安全な乗り方・横断歩道の渡り方などについて話題にしてみてください。

学習の手引きについて

昨年度作成した学習の手引きを今年度も活用しています。冊子には、授業の受け方や家庭学習の方法、自主学習の例と学年末に身に付けておきたい力等が記載されています。

子どもたちの学力を高めるためには、学校の授業だけではなく、家庭での学習の取組も大切になってきます。特に自主学習は、「１０年後、２０年後に生きる力」を育むために大切な学習です。これからの時代、単純作業はＡＩに取って替わると言われています。そのような中、新たな課題に直面したときに、新しいことを創造できる人材が、今後必要とされます。誰かの指示を待ち、言われたことを言われた通りにやるのではなく、そのときに何が必要かといった最善策を考え、プラスアルファの仕事ができる、そのような力が求められています。自主学習を通して、将来に生きる力を身に付けてほしいと願います。